

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム南十字星

ユニット名 グループホーム十字星

自己評価実施年月日 平成 19 年 8 月 20 日

記録者氏名 毛利嘉代

記録年月日 平成 19 年 8 月 21日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	<p>入居者が安心して生活できるように医療との連携の強化や重度化しても住み続けられる努力、身寄りのない方の受け入れなどを始め、施設の地域への貢献など取り組んでいる。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	<p>花火大会以外も要望を受けお月見での屋上開放を増やすなどの交流機会を増やし、定期的訪問（小学校、保育園、黒潮OB会、民生委員など）の継続、生活リハビリ、散歩などでの理解を取り組んでいく。</p>
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>地域の方に積極的に声掛けすると共に夕涼み会や地域の運動会での積極的参加</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	<p>継続すると共に地域の要望を受けての月見での屋上開放の追加など、交流に努めていく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	いきいき百歳体操でのかみかみ百歳体操の取組の追加や避難施設としての地域貢献の継続。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	評価を受けて話し合い、改善に努めていく。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	運営推進会議で、具体的に話し合った内容を職員や業務委員会で話し合いを行い実践していく。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	市町村関係者との連携の維持。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	身寄りのない入居者が増えてきているので、必要な入居者に利用支援する。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	○	虐待防止の徹底を図る。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行うと共に入居後も説明相談を行っている。	○	わかりやすい説明を心がける。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見に耳を傾け、家族にも面会時などいろんなことを話し合える機会を持っている。	○	話しやすい関係を維持していく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1会の家族会の案内で、入居者の様子や取り組んでいることなど報告を行っている。また家族会や面会時に行っている。	○	状態変化は電話などで報告をし、相談を行っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の掲示、苦情箱の設置、第三者委員を決めている。面会時など、家族の意見をいい出しやすい関係を作っている。	○	面会時など、家族の意見を積極的に聞くように心がける。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務委員会や朝夕の申し送り時など、職員の意見やを聞いている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族の希望時は動きやすい管理者が対応することが多いが、状況の変化などへの臨機応変の勤務変更を行い、法人への応援要請ができる体制をとっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前はいろんな経験をつんでもらう為に異動が多かったが、現在は定着している。	○	職員の定着を図る。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の実践研修や管理者研修の受講や研修内容による希望を取り、参加できる機会の確保に取り組んでいる。	○	本人の希望する研修への参加を支援する。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会や研修会に参加し交流を持ち、他のところでの取り組みなどを聞く機会を持っている。また関連グループホームへ取り組みなど意見を聞いたりしている。	○	勉強会や交流会への参加を増やす。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者、職員は話しやすい環境になっており日々話をしており、また定期的親睦会も行っている。	○	定期的親睦会の維持、話しやすい環境づくりの継続
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	介護福祉士や介護支援専門員試験受験に向けて、努力できるよう支援している。	○	資格習得に向けて支援する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時、面接時に本人との関係を築き本人の希望などを聞いている。また入居後、早期に職員と信頼関係を深められるように側でじっくり話を聞いている。	○ 入居者といろいろな会話を持ちながら、相談してもらえる関係を維持していく。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時には、家族とも話しをし入居者の状態や家族の悩みについても話し合っている。	○ 面会時や電話での相談による信頼関係の維持。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、その緊急性や待機できる場所などを話し合い、病院や事業者などと相談支援している。	○ 緊急性のある相談者の諸機関との連絡調整を図る。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が環境になれるように、整備や家族に時間を多く取ってもらうなど、一人ひとりに合わせて支援している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と共に歩む気持ちで、長年培われた経験などを調理などに生かしてもらいながら、教わったりする関係を作っている。	○ 若い職員に昔の風習などを教える、職員は聞き上手になり自信を持ってもらう。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、その時々の入居者の状態に合わせて相談しあい、共に支えあっている。家族地域交流会に参加してもらっている。また定期的な宿泊や外出で支えていく関係を作っている。	○	家族会の参加呼びかけや家族参加できる外出行事に取り組む。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係の理解に努め、入居あるいは面接時のアドバイスなどで関係作りを支援している。また面会時には、居室やソファなどであつろいで過ごせるように支援している。	○	家族との自由な外出、外泊支援。宿泊時の、過ごしやすい環境づくり。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも会いににこられる環境づくりや家族と出かける機会の支援をしている。	○	家族がいつでも会いにこれ、一緒に外出できるよう支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活の場として他の入居者への誘いや入居者同士の会話を取り持つなど支援している、	○	会話を取り持ち仲間作りを支援している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も、入院などで住居が決まってない方の荷物を決まるまで預かったり、病状が良くなれば待機待ち一番での待機への可能性を探ったり、身寄りのない方の支援を大切にしている。また退居後亡くなられた方を見送りも行っている。	○	入院退去の入居者の待機待ちを掛けるなど復帰に向けて家族の相談に乗る。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に生活の希望について聞いている。できにくい場合は、たとえば散歩はとか具体的な項目を挙げ聞いている。家族会や面会時に、本人の嗜好や希望を聞くなど行っている。	○ 日常の会話の中で、さらに細かく把握していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入居前のサービス利用事業者、市役所担当職員などからの情報把握に努めている。	○ 身寄りのない入居者の把握に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の側で記録を行い、昼夜共に入居者を見守り把握するように努めている。	○ 入居者の側で観察把握を続ける。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に話し合う、またサービス担当者会を本人参加型で行うことで本人に沿った介護計画が作成されている。	○ 本人や家族の希望に沿った介護計画を作っていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院時、状態の変化により随時に、また定期的に見直している。	○ 定期的及び随時に見直しをしていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中の様子や本人の言葉など細かく介護計画に沿って記録している。	○	本人の言葉での記録に心がける。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族のいない方も、家族になりかわり支援している。	○	身寄りのない入居者の受け入れ支援する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	避難施設として地域との結びつきも深く、民生委員や町内会、防災会、小学校などと連携している。	○	地域との連携を維持していく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	いきいき百歳体操に参加支援している。	○	かみかみ体操に参加支援し、いきいき百歳体操・かみかみ百歳体操をグループホーム内でも行う。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加してもらい話し合っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	医療連携体制で安心して入居者、家族が過ごせるように支援する。
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	グループホーム内の生活を見てもらいながら、より良い相談指示をもらう。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	異常の早期発見ができるように支援する。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	グループホームの生活の理解をしてもらうことで、より良い入退院の時期の相談ができる。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	状態が重度化した場合の、その時々グループホームでできることできないことなどの細かい説明を行う。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	医療連携体制の維持。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院以外で老人福祉施設や他のグループホームに移り変わられた入居者について、細かな情報の提供や環境変化に慣れやすくなるようここでの入居時の様子などを新しいところに伝えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの。保護に努めている、	○	個人情報の取扱の徹底。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	飲み物やおやつの希望、レクリエーションにしたいことや行事での外出希望を聞くなど支援している。	○	自己決定できることを多くなるように支援する。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望にそって時間をずらしたり、取り組んだりを行っている。	○	入居者の希望にそって支援を続ける。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容サービスが入っており支援している。家族が本人のなじみの店に外出支援している場合もある。	○	訪問理容サービスを受け髪型の自己決定や職員による散発も希望により行っているのを継続する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>調理、準備は病院や寮でのまかないの経験や主婦の経験をいかして参加してもらっている。また自己配膳と自分の食器洗いを全員行えるように支援している。</p>	○	自己配膳や食器洗いを支援する。
55	<p>タバコの付き添い支援や飲み物やおやつなど選択する機会を支援している。</p>	○	入居者の好みに応じて支援する日が増える。
56	<p>本人の希望時あるいは時間誘導を行っている。排泄パターンにより時間をずらしての誘導も行っている。</p>	○	毎月ごとのオムツ使用量の集計時、増えた方には原因など検討している。
57	<p>入浴の声掛け時、拒否される方は時間や職員を変えたり、洗髪を嫌われる方はシャンプーハットを利用したりして支援している。</p>	○	毎回拒否が強い場合は、その拒否の原因の不安を少なくなるよう支援する。
58	<p>一人ひとりの夜間の睡眠状態により、日中の活動を増やすことで夜間の睡眠が取れるよう支援している。</p>	○	日中の活動を支援する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>調理や新聞取りに行く、洗濯物たたみ、チラシちぎり（猫のトイレ用）など役割を持って生活できるよう支援している。</p>	○	入居者の状態に合わせた掃除や調理、洗濯物たたみ、お盆ふき、鼻の水遣り、ペットの世話など役割支援を継続する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる入居者は、家族と話し合い小額持ってタバコを一緒に買いに行くなどを行っていた。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩行リハビリに力を入れており、コースを決めたりして地域を散歩したり、地域の公園などに掛けている。	○	季節に合わせて、地域への散歩などの広がりを図る。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	車で花や飛行機などを見に行ったり、行事として家族にも参加要請し、一緒に出かけられる機会を持っている。また、希望があれば買物に行く機会を持っている。	○	行事としての家族と一緒にのみんなでの外出や、個別の外出を支援する。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分の部屋に電話を引いている入居者もあり、他の方も希望時電話をしたり支援している。手紙がついた場合はすぐに本人に渡し、代読なども行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来ていただければるように努めており、定期的に宿泊される家族も居られる。	○	気軽に訪問できるように努める。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。	○	身体拘束しないケアの実施の維持。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	鍵を掛けないケアを維持する。
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	入居者の側で職員は見守り、安全確認、所在確認を行っていく。
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	入居者の行動予測し、危険がないように支援する。
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	救急対応の研修や訓練に実施。
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	地域の避難施設としての、災害時の対応支援。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居者に起こりえるリスクについては、その時の状態に応じて説明し、対応を話し合っている。	○	家族と病状、状態の変化など話をしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化に注意し、些細な変化も見逃さないように努め、気付いた際は職員は管理者に報告、管理者から訪問看護ステーション、病院に連絡体制を取っている。	○	職員、管理者、病院、訪問看護ステーションの連携を深める。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の説明書をファイル化し、薬の変更、用量、副作用などを理解し支援している。	○	薬の変更時の申し送りを徹底する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	職員は、入居者の排便周期を把握し、水分、歩行運動、食べ物などで工夫している。	○	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	訪問歯科による口腔ケアや毎食後の口腔ケアの実施に取り組んでいる。	○	口腔ケアの実施の徹底、かみかみ体操の導入
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	週5日は関連グループの栄養士の献立を参考にしており、こまめな水分補給や入居者の状態に合わせて刻むなど支援している。	○	食事量の確保と摂取量の低下時の個別の捕食を支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ予防接種は入居者、職員共に行っており、感染症に対する研修に参加し、マニュアルも作り予防に努めている。	○	感染予防の徹底を図り、手洗いを多く行っている現状を維持する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生活の場としての台所や調理用具の漂白や掃除などを定期的に行い、食材は新鮮なものを購入使用し、定期的に冷蔵庫の点検を行っている。	○	食中毒予防の徹底を図る。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関はゆるいスロープになっており、自動販売機やベンチも設置し近所の方も利用されている。また子供たちもよく遊びに来てくれている。	○	いつでも利用しやすい環境を作る。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を行い、季節感も取り入れ工夫している。	○	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで玄関先や廊下で個別になれる場所を工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に、今まで使い慣れた家具や仏壇を含め 持ってきてもらうなど支援している。	○	生活の場としての環境づくり。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	窓の開閉をこまめに行い、換気に努めている。 またホールに温度計を設置し、快適に過 ごせるよ うに努めている。	○	換気に努め、特に夜間の温度調整に努める。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	ホール、廊下、トイレ、風呂場など手す りをつけている。また歩行リハビリに 取り組むことで歩 行の低下を防いでいる。	○	歩行リハビリの継続。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	日めくりカレンダーの掲示。目印や居 室の表札な ど。	○	環境整備の継続。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が 楽しんだり、活動できるように活 かしている	犬や猫を飼っており動物と触れ合 える環境を 作っている。季節に応じた花作り など。	○	季節に応じた環境づくり。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・建設段階から住民の要望を受けて、木造から鉄筋へ変更して地域の避難施設になっている。常に地域に開かれた施設としての交流が多い。